

分科会総括（高野健人 WHO 健康都市研究協力センター所長・学術委員会委員長）

[閉会式におけるスピーチ内容]

学術委員会委員長として、本日 10 時から 15 時まで開催された 10 の第 3 回健康都市連合国際大会における分科会セッションについて総括を行わせていただきます。

午前と午後を合わせて、10 の国と地域より、口演発表 84 件、ポスター発表 28 件が行われ、約 1,000 名が参加いたしました。

まず、ファシリテーターからの報告及び私自身が聴講した内容に基づき、各セッションの要点をご紹介します。その後、健康都市における経験と発想の学術的交流の意味を考えていきたいと思えます。

セッション 1 では、各国の都市間ネットワーク活動について発表が行われました。今回の発表以外でも、ネットワーク活動を行っている国は他にもあり、今後彼らの活動内容について知る機会があるでしょう。セッションの後半では、健康都市プログラムの持続可能性と能力開発の重要性が話し合われました。

セッション 2 では、地域における基本的なセティング、その他のセティングにおけるアプローチについて事例紹介が行われました。

セッション 3 では、企画段階から評価システムを導入するメリットについて、実体験に基づく発表が行われました。健康都市プロジェクトを支援するための条例制定の重要性も取り上げられました。たばこ規制プロジェクトを支援するためのタバコ税条例の等の発表がありました。

セッション 4 は、口演発表が 19 件、ポスター発表が 8 件行われ、発表者が一番多いセッションとなりました。安全な都市生活をおくるために、多部門間協力が必須であることが明確になりました。

セッション 5 では、数十年間に及ぶ健康都市プロジェクトの事例が発表され、プロジェクトを進める上で直面した制約や課題、それらをどのようにして乗り越えたのかといった経験が共有されました。参加者の皆様も非常に有効な情報を得られたことでしょう。

セッション 6 では、遠隔通信、遠隔治療、e-ガバナンス等、情報技術（IT）を使った様々な先進事例が共有されました。

セッション 7 では、ヘルシースクール、ヘルスプロモーションスクール、世代間コミュニケーションについての発表が中心となりました。次世代の健康推進は健康都市の責任であり、そのための教育と予算配分が重要であることが協議されました。

セッション 8 では、健康的な食生活を推進するための様々な戦略手法が発表され、都市部における食の確保という課題が言及されました。

セッション 9 では、身体活動促進の事例発表、そして身体活動促進にむけての体を動かす場と機会を創設することが鍵であると討議されました。

セッション 10 では、心の健康作りを支援する環境作りについて様々な事例発表が行われました。如何にして地域住民の繋がりを強化するか、が次の課題となるでしょう。

ポスター発表では、ポスターの利点を生かした発表が幾つか見受けられました。色彩豊かな写真、健康都市の研究活動及び結果が明確な数値や表で提示されておりました。

分科会の目的は、有効な戦略や成功・失敗事例を共有しながら、相互理解を深め、健康都市プログラムを促進することです。情報の共有は知識を深め、創造力を高め、資源を増やします。過去の経験あるいは他の地域と比較し、精密に分析されている発表に感銘を受けました。このような経験と発想の交流は確固たる信頼性の高い根拠の積み上げとなり、健康都市の持続可能性は確かなものとし、プロジェクトが成功に導かれることでしょう。更に様々な都市および国の代表者が相互理解、コミュニケーション、友好関係を深めることに繋がるでしょう。

最後となりましたが、全ての都市が対応を余儀なくされている世界的な都市化が進み、健康の脅威に国境が無くなりつつある昨今、国際的ネットワーク作りは非常に重要です。

参加者の皆様が分科会を通じて多くを学び、新たな発想に芽生え、健康都市実践の成功に貢献していただくことを心より願っております。

以上で第 3 回健康都市連合国際大会分科会総括を終了させていただきます。
有難うございました。